

猪股博士を偲んで

仁 杉 巖*

私が猪股さんに初めて会ったのは、猪股さんが終戦後、鉄道省に復職されて間もない昭和 21 年の初めの頃であったと思います。その頃私は鉄道省の大臣官房研究所の第 2 部第 3 設計課長兼コンクリート室主任研究員として勤務していましたが、そこへ猪股さんが研究所第 2 部コンクリート研究室勤務として入ってこられたというわけです。

私は当時真面目なコンクリートの研究者、設計者として、設計では停車場関係構造物の標準設計の作成を、そしてコンクリート研究室では当時研究所の顧問をされていた吉田徳次郎先生の指導でプレストレストコンクリート（以下 PC と書く）桁の実験や研究をするという仕事をしていました。

その頃猪股さんはもっぱらコンクリート研究室におられコンクリートの基礎的な勉強をしておられたが、時折私の PC の実験を手伝ってくださったりしていました。こんなことで、私と猪股さんとは年もあまり変わらないので、兄弟のような付き合いのなかで仕事上、また当時なかなか苦しかった生活の相談などもしながら勤務しておりました。当時私は猪股さんとコンクリートの本質や当時あまりよく理解されていなかった PC の性能などについて議論することがありましたが、それらを通じて猪股さんが真面目な勉強家であり、頭脳もすばらしく切れて、現場向きというより学術的な思考をする人であって、将来コンクリート界で研究者として大きな成果をあげる人だと強い印象を受けたのを記憶しています。

私は昭和 24 年に当時勉強していた PC の研究成果を「鋼弦コンクリートの性能に関する実験的研究」としてまとめたのを機会に、諸先輩をお願いして研究所を離れて国鉄の現場に勤務することになりました。しかし、これまで私が担当していた PC は、日本でもどうやら実施の目鼻がついてきたときであったし、また諸外国などをみると将来 PC は大変な発展をすると思込まれたので、今後の PC 研究の推進には優秀な人材を配置すべきだと考え、上司の方々に猪股さんを推薦していました。その考えが衆目の一致するところとなり、その後の鉄道研究所の PC の研究を猪股さんが担当することとなり、当時鉄道として重要な研究課題であった PC 枕木の研究から猪股さんが入っていったように思いますが、その後も PC の各方面で大きな成果をあげておられました。

その頃わが国の PC 分野では、フランスのフレシネグループがわが国の PC に関する原理特許をもっており、昭和 27 年に藤田亀太郎氏が中心となって極東鋼弦コンクリート振興KK（以下 FKK と書く）が設立され、フレシネの原理特許実施の代理店として発足しました。したがって当時は、PC を使うときにはこの FKK を通じてフレシネグループに特許料を支払う必要がありました。FKK はこの特許代理店事務のほかに PC を発展させるための業務、PC にかかわるコンサルタント業務を行うことになり、PC 関係の優れた技術者を入社させたいとして猪股さんに白羽の矢をたて入社を勧誘しましたが、猪股さんは国鉄を退職することについて大変迷われたようで、その頃のある日私のところに来られて、FKK に誘われているが将来大丈夫だろうかとの心配を話しておられました。この猪股さんの心配はまだ PC

* Iwao NISUGI：西武鉄道（株）社長

◇追悼文◇

の将来がはっきりしない当時としては当然であると私も思いましたが、私は今後の PC の発展にとって、猪股さんがこの分野で活躍されることは大変重要なことだと思っていましたので、猪股さんといろいろお話をし、ぜひ FKK にいってほしいと希望しておきました。猪股さんは他の方の意見も聞かれたと思いますが、最終的には FKK 入りを決意され、その直後、入社の際の約束にしたがって約1年間フランスの FIP へ留学され、そこでフランス語と PC の勉強をされて帰国し、それから猪股さんの本格的な PC 分野での活動が始まったといえると思います。

猪股さんはそれからコンサルタントという立場から国内の PC の発展に大変な功績をあげられており、今日の隆盛な PC 構造物の姿をみると、そのかげには猪股さんの偉大な影響力があったのだと思います。また彼はその学識と流暢な語学力で、ヨーロッパ、アメリカ、その他全世界の PC 界関係者との交流を深め、PC 界の世界会議で報告者や司会をつとめるなど、彼の名は日本より世界で知られていたといわれています。

さらに猪股さんは、日本の工業規格制定で大変な業績をあげられるとともに、後輩の人達の教育や技術向上についても多くの大学で教鞭をとられたり、PC の教科書的な著書をいく冊も発刊されて大きな成果をあげておられます。

元気でおられれば、まだまだ PC のために、日本で、世界で活躍していただけたと思うと、亡くなられたことが残念でなりません。

合 掌